

3.11地震

大金 誠



(おおがね・まこと)
 歯科医師
 ICDフェロー

地震が起きてからはや1年になろうとしています。茨城も被災県として多大な影響を受けました。地震だけの被害でしたら、被災地、それを支援する人多くの人の輪で大変ではあるが、もっと元気よく、さすがに、日本人といえるような復興支援が早く始まっていたと思うのですが、やはり福島の子力発電所の爆発が一番大きな影を落としていると思います。私の診療室のあるビルも今年になり2月末から補修工事に入り始めました。5月末までかかるそうですが、細かい亀裂等修理しなければならないところがあるようです。平成20年11月に分譲オープンしたばかりで、12月からこのビルに移転開業しました。見た目は損傷はないのですが、よく見ると最近外壁に徐々に損傷が出てきています。それらの工事ため19階建てのビルですが、入り口を除いて3階まで工事用の幕に覆われてしまいました。日当たりの良い待合室ですが、しばらくは我慢するしかありません(図1)。



図1 工事用の幕に覆われた診療所待合室

さて昨年の3月11日に話は戻しますが、当日は普段通り診療中でした。丁度、一段落してトイレに入っていたとき、揺れ始まり、トイレだから大丈夫と思いましたが、延々と続く揺れに最後はしゃがみこみトイレを抱えてしまいました。地震後出てみると患者さんはみな表に逃げたてしどい誰もいませんでしたが、幸いなことに診療室および建物はほとんど被害がありませんでした。すぐに電気・水が止まり、休診にしました。大きな揺れは体験してもほとんど被害がなかったので、大きな地震で水戸もかなりの被害あったという実感はありませんでした。しかし、マンションの上の階の人たちは、家具が飛散してドアが開かず家の中に入

れず、かなりの人がすぐ脇の水戸芸術館という施設で一晩あかしました。私の自宅は診療所から徒歩で15分ぐらいのところ住んでいます。家にもどる途中ビルの外壁の崩壊、道路のうねり等々かなりのものでした(図2)。自宅の家財はピアノ等かなり動き、食器もこわれましたがさしたる大きな被害はありませんでした。



図2 途中ビルの外壁の崩壊

停電のため、東北地方の津波等実際の被害がわかるのは、電気、水道が使えるようになった次の日の夕方以降でした。後日知れば知るほど大変な地震で、津波の被害も甚大でした。自分家族のことに精一杯で知ってもどうすることもできませんでした。私のところは住まいも仕事場も水戸市街地ですので、インフラは1日半で復旧しましたが、近隣の水戸郊外では、電気も水道も復旧に時間がかかりました(図3-1、3-2)。特に道路が寸断され、常磐線も開通に時間がかかり4月2日のICD日本部会のお花会に参加したときも水戸から各駅停車しかなく普段の倍時間をかけて参加いたしました(図4)。水戸市内もかなり被害があり、道路・橋等の損傷もひどく、ガソリン不足もあわせて大変でした。私の従業員も、しばらくポリタンクに水を



図3-1 近所の幼稚園



図3-2 水々駅柱



図4 震災後のお花見会

汲んで自宅に帰っていました。今回の地震に関しては話を聞くと本当に皆それぞれ何分あっても足りない苦労話、体験談、帰宅難民談があります。まだ一年たっても、家の補修すらできない人たちもいます。実際の被害状況は、書いていたら紙面が足りないので省かせていただきます。茨城では毎日のごとく地震がありますがかなり慣れました。また大きな地震が来るかもしれないという話もありますが、もう経験したくはありません。それに原子力発電所の事故です。このことに関してはとても苛立ちを感じます。東電にしても原子力保安等々もっとはっきりと施策をもって対処してほしいものです。『しかしがんばっぺ茨城』世の中が好転するように自分を鼓舞し毎日の仕事に励み、前向きに生きたいと思います。被災後に読んだ書籍の一部をご紹介します。

「原発のウソ」小出裕章著

「原発危機と東大話法」安富歩著

「国難に克つ」櫻井よし子著

「日本中枢の崩壊」古賀茂明著

「ほんとに彼らが日本を滅ぼす」佐々淳行著

「官邸崩壊」上杉隆著

「報道災害(原発編)」上杉隆・鳥賀陽弘道著